

三十一回蒼天句会 今月の一句

令和七年五月八日 兼題…夏隣、又は自由

高く漕ぐぶらんこ挫折まだ知らず 公子

野の色の濃き日溜りや夏隣 婦紗子

能登の田にそそぐ水音夏近し 賢一

竹林に銀輪の列夏隣 繁一

ふるさとや八十八夜の雨匂ふ 孝志

しがらみのシャツ脱ぎにけり夏隣 洋一

チュウリップ赤白黄色祝祭日 信江

人憩ふビルの谷間の若葉風 静江

夜桜に恋の予感や風渡る 鎮夫

日射し濃きベンチに座る夏隣 国祥

バカンスの行き先決める夏隣り 隆彦

芝生踏む白き足うら夏近し 隆男

天平の塔や葎や風薫る 重子

囀やみんな長生きする積り 朱美

あの頃は父母がいて昭和の日 紹子

むせ返る花の香の道夏近し 久恵